

平成29年5月23日

北海道新聞



ベルトコンベヤーを流れる新ひだか特産のミニトマト「太陽の瞳」

きらきら大粒 太陽の瞳

新ひだか ミニトマト出荷本格化

【新ひだか】町静内地区で、特産のミニトマト「太陽の瞳」の出荷が本格化し、22日にはしずない農協野菜集出荷センターの2台の選果用機械が稼働を始めた。大粒でつややかなミニトマトが、町内外に送り出されている。

今年の出荷は4月21日に始まった。現在は農協職員やパートの主婦ら30人余りがベルトコンベヤーに張り付き、運ばれてくるミニトマトに傷がないかやヘタが付いているかをチェック。その後、粒の大きさごとに選別、箱詰めする。選果用機械がフル稼働となった5月22日には3・6㍓が処理された。

太陽の瞳は、糖度が高く光沢のある品種「キャロル10」のブランド名。しずない農協では今年、農家45戸と新規就農に向け研修中の4組が計30㍓に作付けした。現在は道内5市場に出荷され、今月下旬からは東京など道外7市場にも出荷する。出荷は11月まで続く予定。
(敦沢政俊)